

笑ってごらん

第 674 号 2020. 2. 13 発行

～今日の格言～

1年目には種をまき、2年目には水をやり、
3年目には花を咲かせましょう。

(野村克也)

時間

鹿児島弁に「さんごじゅうごしてから～」という言い回しがある。

先日、この「さんごじゅうご」について、「意味はわかるが由来がわからない。かけ算九九の三五十五かなとは思いますが、そもそもなぜ三五十五を使う必要があったのか。」なんていう話になったので、やほ～で検索してみた。

すると、確定理由ではないが、どうやら「産後」と九九の「三五十五」をかけているようで、「産後十五日間くらいは動かない方が良く」ことから転じて、「ちょっとしてから、少ししてから」という意味で、蛍光灯が点く時のようにワントンが遅れることを揶揄して言うようになったようだ。

使い方としては「すぐ来いって言ったのに、さんごじゅうごしてから来た。」とか「面白いことを言われたが、すぐには意味が分からなくて、さんごじゅうごしてから可笑しくなった。」など。

遅れるということ言えば、似たような表現として「博多時間、薩摩時間、沖縄時間」などがある。



現代ではいずれも「ルーズな時間感覚」と解釈されることが多い。

商売第一の博多商人の家を訪ねる際、約束の時間より前に行くと、ギリギリまで客の迎え入れ準備をしている相手に迷惑をかける。よって、少し遅れて行くのが礼儀であるとの理由から発祥したという。しかし、これはあくまで私的用事の場合であり、公的用事の場合はあてはまらない。

明治以降、鉄道や時計の普及で国民に時間を守る意識が広く浸透したが、元々日本人は時間におおらかだったことの名残で「ご当地時間」があるようだ。

論理

論理には「整理する」と「伝える」という二つの重要な役割がある。

たとえば、机の上に膨大な書類が乱雑に積み上げているとしよう。そこから必要な書類を一枚取り出すのはかなり厄介だし、仮に見つけ出したとしても無駄な時間を費やしてしまうことになる。

一方、机の上には必要な書類しかなく、しかも、きちんと整理されファイルごとに分類されていたとしたなら、あなたは一枚の必要な書類を難なく取り出すことができるはずである。見つけやすいだけでなく、必要なものを必要な時に素早く取り出すことができる。

これは学習する際の頭の中の状態を例えたもので、前者が何でも詰め込んでしまった状態、後者が必要なものだけを論理的に整理して頭の中に入れた状態である。

頭の中が明晰な状態であるからこそ、論理的に話したり、論理的に文章を書いたりすることが可能になる。

自分の考えを論理的に人に伝えることは、これもまた、これからの社会で生き抜くための能力なのである。

(株式会社水王舎 代表取締役 出口 汪)